

## 小野寺家資料について

小野寺家文書は、80点に及ぶ当館所蔵の文書群である

小野寺家は、初代藤右衛門が、延宝八年（1680）御金奉行を仰せ付けられて以来、明治に至る迄約190年間の長きに亘って内藤家に仕え、家禄150石～200石、代々御武具奉行、御旗奉行、御普請奉行、御勘定奉行、大目付、郡代、御物頭、御用役等、藩の要職を歴任し、特に四代目の藤助は、御年寄役をも勤めた高遠藩の上級武士の家柄である。

小野寺家文書の中で最も目に付くものは、多数の武芸伝授書の類と、小笠原流礼法の免許状である。これらは、上級武士の家にとっては重要な文書であったのであろうか、非常に大切に保存されていた様子である。

その他、大目付や郡代等役中の諸書留類、日記の類等、当時の高遠藩の様子を知る上で参考となる、興味深い資料も多い。

中でも、廃藩直後の親藩庁において、貨幣掛りを勤めた人の、三冊に及ぶ日録等は、明治維新政府誕生時の貨幣の混乱ぶりを伝えていて、興味深い。

小野寺家文書には、私的文書は余り多くはないが、細々と記された『料理法覚書』があり、味噌醤油の作り方から各種漬物類、餅、粽（ちまき）等の作り方迄、丹念に書かれた料理ノートは、当時の食生活を物語る貴重な一冊である。

これら文書は、いずれも丁寧に保存され、虫損も少なくきれいで読みやすい物が多いので、多くの方々がこれらの資料に目を通され、江戸時代の高遠に関する知識を深める手掛かりとしていきたいものである。